

学習指導要領		都立雪谷高等学校 学カスタンダード
(1) 世 界 史 へ の 扉	<p>自然環境と人類のかかわり、日本の歴史と世界の歴史のつながり、日常生活にみる世界の歴史にかかわる適切な主題を設定し考察する活動を通して、地理と歴史への関心を高め、世界史学習の意義に気付かせる。</p> <p>ア 自然環境と人類のかかわり 自然環境と人類のかかわりについて、生業や暮らし、交通手段、資源、災害などから適切な歴史的事例を取り上げて考察させ、世界史学習における地理的視点の重要性に気付かせる。</p> <p>イ 日本の歴史と世界の歴史のつながり 日本と世界の諸地域の接触・交流について、人、もの、技術、文化、宗教、生活などから適切な歴史的事例を取り上げて考察させ、日本の歴史と世界の歴史のつながりに気付かせる。</p> <p>ウ 日常生活にみる世界の歴史 日常生活にみる世界の歴史について、衣食住、家族、余暇、スポーツなどから適切な事例を取り上げて、その変遷を考察させ、日常生活からも世界の歴史がとらえられることに気付かせる。</p>	<p>世界史と日本史の関連性に留意し、世界の歴史にかかわる適切な主題を設定し考察する活動を通して、地歴公民全般への関心を高め、世界史を学ぶことの意義を主体的に理解できる。</p> <p>ア 自然環境と人類のかかわり 自然環境と人類のかかわりについて、自然環境が人類の歴史に大きな影響を与えたこと。逆に人類の営みが自然環境に影響を与えたことを理解する。</p> <p>イ 日本の歴史と世界の歴史のつながり 日本と世界の諸地域の接触・交流について、人、もの、技術、文化、宗教、生活などから適切な歴史的事例を取り上げて考察させ、日本の歴史と世界の歴史のつながりに気づく。</p> <p>ウ 日常生活にみる世界の歴史 日常生活にみる世界の歴史について、文化、習慣など多岐にわたる分野から適切な事例を取り上げて、その変遷を考察し、日常生活も世界史と深いかわりがあることを理解する。</p>
(2) 諸 地 域 世 界 の 形 成	<p>人類は各地の自然環境に適応しながら農耕や牧畜を基礎とする諸文明を築き上げ、やがてそれらを基により大きな地域世界を形成したことを把握させる。</p> <p>ア 西アジア世界・地中海世界 西アジアと地中海一帯の地理的特質、オリエント文明、イラン人の活動、ギリシア・ローマ文明に触れ、西アジア世界と地中海世界の形成過程を把握させる。</p>	<p>人類がそれぞれ自然環境に適応しながら農耕や牧畜を基礎とする諸文明を築き上げ、やがてそれらを基により大きな文化圏を形成したことを理解する。</p> <p>ア 西アジア世界・地中海世界 西アジアと地中海一帯の地理的特徴を理解し、オリエント文明、ペルシア（イラン）人の活動、地中海東部のヘブライ人、フェニキア人、アラム人の活動、更にヨーロッパ文明の基盤となったギリシア・ローマの古典文明に触れ、地中海世界の形成過程を理解する。</p>

学習指導要領		都立雪谷高等学校 学カスタンダード	
(3) 諸 地 域 世 界 の 交 流 と 再 編	<p>イ 南アジア世界・東南アジア世界 南アジアと東南アジアの地理的特質、インダス文明、アーリヤ人の進入以後の南アジアの文化、社会、国家の発展、東南アジアの国家形成に触れ、南アジア世界と東南アジア世界の形成過程を把握させる。</p>	<p>イ 南アジア世界・東南アジア世界 南アジアの文明の特質を理解し、更に東南アジアの「港市都市」の成立を理解することによって、インドの古典文明と東南アジアの文化との関連性を理解し、南アジア世界と東南アジア世界の形成過程を整理して理解する。</p>	
	<p>ウ 東アジア世界・内陸アジア世界 東アジアと内陸アジアの地理的特質、中華文明の起源と秦・漢帝国、遊牧国家の動向、唐帝国と東アジア諸民族の活動に触れ、日本を含む東アジア世界と内陸アジア世界の形成過程を把握させる。</p>	<p>ウ 東アジア世界・内陸アジア世界 東アジアと内陸アジアの地理的特質とそれに基づく、異なった社会の形成過程を把握し、交流と衝突を繰り返しながら展開していく中華文明と周辺の諸民族の活動に触れ、日本を含む東アジア世界と内陸アジア世界の形成過程を理解する。</p>	
	<p>エ 時間軸からみる諸地域世界 主題を設定し、それに関連する事項を年代順に並べたり、因果関係で結び付けたり、地域世界ごとに比較したりするなどの活動を通して、世界史を時間的なつながりに着目して整理し、表現する技能を習得させる。</p> <p>ユーラシアの海域及び内陸のネットワークを背景に、諸地域世界の交流が一段と活発化し、新たな地域世界の形成や再編を促したことを把握させる。</p>	<p>エ 時間軸からみる諸地域世界 自ら主題を設定し、それに関連する歴史事項を年代順に縦に並べたり、諸地域との相互の関わりを整理したりする活動を通して、世界史を時間的なつながりに着目して整理し、表現する技能を習得する。</p> <p>ユーラシアの海域及び内陸のネットワークが諸地域世界の交流に大きく貢献し、新たな地域世界の形成や再編を促したことを学ぶ。</p>	
	<p>ア イスラーム世界の形成と拡大 アラブ人とイスラーム帝国の発展、トルコ系民族の活動、アフリカ・南アジアのイスラーム化に触れ、イスラーム世界の形成と拡大の過程を把握させる。</p> <p>イ ヨーロッパ世界の形成と展開 ビザンツ帝国と東ヨーロッパの動向、西ヨーロッパの封建社会の成立と変動に触れ、キリスト教とヨーロッパ世界の形成と展開の過程を把握させる。</p>	<p>ア イスラーム世界の形成と拡大 当初はアラブ人主体であったとイスラーム帝国がイランやトルコ系民族の活躍によって拡大し、更にアフリカ・南アジアへと拡大していった過程を理解する。</p> <p>イ ヨーロッパ世界の形成と展開 古代ローマ帝国の後継国家であるビザンツ帝国を中心とする東ヨーロッパの歴史の流れを理解する。西ヨーロッパの封建社会の成立と変動の過程を把握し、キリスト教とヨーロッパ世界の形成と展開の流れを学ぶ。</p>	

学習指導要領		都立雪谷高等学校 学カスタンダード	
(4) 諸 地 域 世 界 の 結 合 と 変 容	ウ 内陸アジアの動向と諸地域世界 内陸アジア諸民族と宋の抗争、モンゴル帝国の興亡とユーラシアの諸地域世界や日本の変動に触れ、内陸アジア諸民族が諸地域世界の交流と再編に果たした役割を把握させる。	ウ 内陸アジアの動向と諸地域世界 内陸アジア諸民族と宋の抗争、モンゴル帝国の興亡とユーラシアの諸地域世界や日本の変動に触れ、内陸アジア諸民族が諸地域世界の交流と再編に果たした役割を把握する。	
	エ 空間軸からみる諸地域世界 同時代性に着目して主題を設定し、諸地域世界の接触や交流などを地図上に表したり、世紀ごとに比較したりするなどの活動を通して、世界史を空間的なつながりに着目して整理し、表現する技能を習得させる。 アジアの繁栄とヨーロッパの拡大を背景に、諸地域世界の結合が一層進展したこととともに、主権国家体制を整え工業化を達成したヨーロッパの進出により、世界の構造化が進み、社会の変容が促されたことを理解させる。	エ 空間軸からみる諸地域世界 同時代性に着目して主題を設定し、諸地域世界の接触や交流などを地図上に表したり、世紀ごとに比較したりするなどの活動を通して、世界史を空間的なつながりに着目して整理する。 アジアの繁栄とヨーロッパの拡大を背景に、諸地域世界の結合が一層進展したこととともに、主権国家体制を整え工業化を達成したヨーロッパの進出により、世界の構造化が進み、社会の変容が促されたことを理解する。	
	ア アジア諸地域の繁栄と日本 西アジア・南アジアのイスラーム諸帝国や東南アジア海域の動向、明・清帝国と日本や朝鮮などとの関係を扱い、16世紀から18世紀までのアジア諸地域の特質とそこでの日本の位置付けを理解させる。	ア アジア諸地域の繁栄と日本 西アジアや南アジアのイスラーム諸帝国と、東南アジア海域でのムスリム商人の動き、明・清帝国と日本や朝鮮などとの関係を扱い、16世紀から18世紀までのアジア諸地域の特質と日本の位置付けを理解する。	
	イ ヨーロッパの拡大と大西洋世界 ルネサンス、宗教改革、主権国家体制の成立、世界各地への進出と大西洋世界の形成を扱い、16世紀から18世紀までのヨーロッパ世界の特質とアメリカ・アフリカとの関係を理解させる。	イ ヨーロッパの拡大と大西洋世界 ルネサンス、宗教改革、主権国家体制の成立、世界各地への進出と大西洋世界の形成を学び、16世紀から18世紀までのヨーロッパ世界の特質とアメリカ・アフリカとの関係を理解する。	
	ウ 産業社会と国民国家の形成 産業革命、フランス革命、アメリカ諸国の独立など、18世紀後半から19世紀までのヨーロッパ・アメリカの経済的、政治的変革を扱い、産業社会と国民国家の形成を理解させる。	ウ 産業社会と国民国家の形成 産業革命、フランス革命、アメリカ諸国の独立など、18世紀後半から19世紀までのヨーロッパ・アメリカの経済的、政治的変革を扱い、産業社会と国民国家の形成を理解する。	

学習指導要領		都立雪谷高等学校 学カスタンダード
<p>エ 世界市場の形成と日本 世界市場の形成、ヨーロッパ諸国のアジア進出、オスマン、ムガル、清帝国及び日本などアジア諸国の動揺と改革を扱い、19世紀のアジアの特質と其中での日本の位置付けを理解させる。</p> <p>オ 資料からよみとく歴史の世界 主題を設定し、その時代の資料を選択して、資料の内容をまとめたり、その意図やねらいを推測したり、資料への疑問を提起したりするなどの活動を通して、資料を多面的・多角的に考察し、よみとく技能を習得させる。</p> <p>(5) 地球世界の到来 科学技術の発達や生産力の著しい発展を背景に、世界は地球規模で一体化し、二度の世界大戦や冷戦を経て相互依存を一層強めたことを理解させる。また、今日の人類が直面する課題を歴史的観点から考察させ、21世紀の世界について展望させる。</p> <p>ア 帝国主義と社会の変容 科学技術の発達、企業・国家の巨大化、国民統合の進展、帝国主義諸国の抗争とアジア・アフリカの対応、国際的な移民の増加などを理解させ、19世紀後期から20世紀初期までの世界の動向と社会の特質について考察させる。</p> <p>イ 二つの世界大戦と大衆社会の出現 総力戦としての二つの世界大戦、ロシア革命とソヴィエト連邦の成立、大衆社会の出現とファシズム、世界恐慌と資本主義の変容、アジア・アフリカの民族運動などを理解させ、20世紀前半の世界の動向と社会の特質について考察させる。</p> <p>ウ 米ソ冷戦と第三世界 米ソ両陣営による冷戦の展開、戦後の復興と経済発展、アジア・アフリカ諸国の独立とその後の課題、平和共存の模索などを理解させ、第二次世界大戦後から1960年代までの世界の動向について考察させる。</p>	<p>エ 世界市場の形成と日本 世界市場の形成、ヨーロッパ諸国のアジア進出、オスマン、ムガル、清帝国及び日本などアジア諸国の動揺と改革を扱い、19世紀のアジアの特質と其中での日本の位置付けを理解する。</p> <p>オ 資料からよみとく歴史の世界 各自で主題を設定し、その時代の資料を選択して、資料の内容をまとめたり、その意図やねらいを推測したり、資料への疑問を提起したりするなどの活動を通して、資料を多面的・多角的に考察し、よみとく。</p> <p>科学技術の発達や生産力の著しい発展を背景に、世界は地球規模で一体化し、二度の世界大戦や冷戦を経て相互依存を一層強めたことを理解する。また、今日の人類が直面する課題を歴史的観点から考察し、21世紀の世界について視野を広げる。</p> <p>ア 帝国主義と社会の変容 科学技術の発達、企業・国家の巨大化、国民統合の進展、帝国主義諸国の抗争とアジア・アフリカの対応、国際的な移民の増加などを理解し、19世紀後期から20世紀初期までの世界の動向と社会の特質について考える。</p> <p>イ 二つの世界大戦と大衆社会の出現 総力戦としての二つの世界大戦、ロシア革命とソヴィエト連邦の成立、大衆社会の出現とファシズム、世界恐慌と資本主義の変容、アジア・アフリカの民族運動などを理解させ、20世紀前半の世界の動向と社会の特質について考える。</p> <p>ウ 米ソ冷戦と第三世界 米ソ両陣営による冷戦の展開、戦後の復興と経済発展、アジア・アフリカ諸国の独立とその後の課題、平和共存の模索などを理解し、第二次世界大戦後から1960年代までの世界の動向について考える。</p>	

学習指導要領		都立雪谷高等学校 学カスタンダード
<p>エ グローバル化した世界と日本 市場経済のグローバル化とアジア経済の成長、冷戦の終結とソヴィエト連邦の解体、地域統合の進展、知識基盤社会への移行、地域紛争の頻発、環境や資源・エネルギーをめぐる問題などを理解させ、1970年代以降の世界と日本の動向及び社会の特質について考察させる。</p> <p>オ 資料を活用して探究する地球世界の課題 地球世界の課題に関する適切な主題を設定させ、歴史的観点から資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、資料を活用し表現する技能を習得させるとともに、これからの世界と日本の在り方や世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について展望させる。</p>	<p>エ グローバル化した世界と日本 市場経済のグローバル化とアジア経済の成長、冷戦の終結とソヴィエト連邦の解体、地域統合の進展、知識基盤社会への移行、地域紛争の頻発、環境や資源・エネルギーをめぐる問題などを理解し、1970年代以降の世界と日本の動向及び社会の特質について考える。</p> <p>オ 資料を活用して探究する地球世界の課題 地球世界の課題に関する適切な主題を設定し、歴史的観点から資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、資料を活用し表現する技能を習得するとともに、これからの世界と日本の在り方や世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について考察を深める。</p>	